

「日々努力を重ねたい」

帯広コア専門学校、48人入学



新入生を代表して決意を述べる横田さん

帯広コア専門学校（千葉直樹校長）の入学式が6日、帯広市民文化ホールで開かれた。新入生48人が新たな一歩を踏み出した。今年度は新型コロナウイルスの影響が一段落したことから、2019年以来5

年ぶりに在校生も式に参加した。高度情報システム科4人、情報ビジネス科13人、医療ビジネス科10人、介護福祉科9人、歯科衛生士科10人、専攻科2人が入学する。千葉校長が「本学では専

門職として必要な知識と経験を身に付けることに加え、変化していく社会に適応する実践的なスキルを身に付けることを目指している。今日から始まる新生活にワクワクドキドキを感じながら学園生活を楽しんでください」と式辞。在校生を代表して藤原千菜さん（医療ビジネス科2年）が「学校生活で困ったことや不安なことがあれば、遠慮

なく先輩や先生方に相談して」と歓迎した。新入生を代表して横田和奏さん（医療ビジネス科）が、自身のけがをきっかけに医療事務職を目指すようになったと言い、「将来、誰かの支えとなれるよう専門的な知識を学び、地域の方の信頼を得られるよう日々努力を重ねたい」と決意を述べた。

（細谷敦生）

「十勝学」で郷土愛育む

帯広コア専門学校 初回は満寿屋「地産地消」



パン作りを体験した学生たち

帯広コア専門学校（十勝）直樹校長で、今年度から、十勝管内のさまざまな業種のプロフェッショナルから話を聞く「十勝学」の授業が行われている。初回の5月10日は、満寿屋（帯広）の杉山雅則社長を講師に招き、地産地消への思いや夢を語ることの大切な

話を聞いた。若い世代に十勝の魅力や十勝で頑張っている人について知ってもらおうと企画。全校の1年生約40人を対象に年間1コマ、農林水産業や音楽などさまざまな業界で活躍する人を先生として迎え、郷土愛を育む。この日担当した杉山社長

による講話で、生徒たちはパン作りを体験。チョコクリームが入った生地を思い思いの形に整え、と、学校近くにある同社のパン店「夢音」に運び、杉山社長が講話している間に発酵と焼き上げを行った。講話では、パン作りや地産地消に対する思いを語った。一番のお得意さまは生

による講話で、生徒たちはパン作りを体験。チョコクリームが入った生地を思い思いの形に整え、と、学校近くにある同社のパン店「夢音」に運び、杉山社長が講話している間に発酵と焼き上げを行った。講話では、パン作りや地産地消に対する思いを語った。一番のお得意さまは生

タイミングで焼き上がったパンが焼き、学生たちには笑顔が広がっていた。情報ビジネス科の赤間勇星さん（22）は「未来の構

想を絵に描いているのが印象的だった。夢を一度見えて形にすることが大切だと感じた」と話していた。（担当教員）

口腔（くわう）内や歯への関心を高めてもらう「お口の健康フェア」むし歯予防デー」が1日、帯広市内のどかちプラザで開かれた。新型コロナウイルス「5類」移行に伴い、5年ぶりにイベント形式で開催した。市民らは口腔内の機能測定や相談、歯磨き指導などを通じ、健康な口の働きを保つ大切さを学んでいた。

十勝歯科医師会などの主



歯科衛生士の仕事などを体験する子どもたち

口の健康守ろう

歯科医師会など 5年ぶりフェア

催、北海道歯科衛生士会十勝支部など共催。4～10日の「歯と口の健康週間」に合わせた恒例の催し。

会場には、「パ」「タ」「カ」の発音で唇や舌の機能を確認する「パタカラ」測定など、計八つの測定・相談コーナーを設置。お年寄りらが歯科医からのアドバイスに耳を傾けた。帯広コア専門学校歯科衛生士科の学生は、歯科衛生士の仕事などを子どもたちに優しく解説した。

（松岡秀宣）



ゴシップ

○：帯広コア専門学校 走る気持ち良さ、楽しさを表現した。
(千葉直樹校長)の学生が 今年のマラソンは10月27日に開かれ
考案した「2024フード
バレーとかちマラソン」(実

行委員会など主催)のポス
ターが完成した。「自然のエールが、
気持ちいい!!」のうたい文句を前面
に出し、十勝の爽やかな気候の中を
走ることになった。制作には、情報系学科で学ぶ
学生約30人が参加。キャッチフレー
ズを考案した早坂悠空(ゆうく)さ
ん(18)「情報ビジネス科1年、写
真左」は「十勝といたら自然が豊
か。自分も走るのが好きで自然のパ
ワーをもらえる」と笑顔で話す。

○：デザインした平山凜さん(19)
「高度情報ビジネス科2年、同右」
は「十勝晴れの空の青と、十勝の農
作物のイメージで緑を使った。自然
と食を楽しんで走ってもらえれば」
と呼び掛ける。エントリーは9月9
日まで。大会ホームページを見て応
募をー。
(高井翔太)

介護や医療、将来の選択肢に

帯広コア専門学校 中学生向け体験授業

車いすを体験する中学生の参加者



帯広コア専門学校（千葉直樹校長）で4日、中学生向けのオープンキャンパスが開かれ、参加者は体験授業を通して、介護や医療の仕事の特色、同校で学ぶ内容などに理解を深めた。

中学生のうちから、同校に触れ、進路の選択肢の一つにしてみらおうと企画。帯広市内や近隣町村の中学生11人が参加した。

中学生来校に合わせて、同校4科では体験授業を展開。医療ビジネス科の調剤補助業務体験では、薬に見

立てた駄菓子や、用意した処方箋に沿ってそろえた。

また、小さな容器にクリムを詰める作業も体験した。

介護福祉科は、車いすやつえなどの種類と機能を紹介。参加した生徒は、用途に応じた車いすの機能の違いも感じ取っていた。

同科担当教員の畠山晴美さんは「介護とは皆さんの優しい気持ちと、ちょっとした技術で人を支える仕事」と魅力を話していた。

（細谷敦生）

2024年8月13日

十勝毎日新聞社 【15面】

臨床実習へ士気高く

帯広コア専門
歯科衛生士科 2年生14人登院式



帯広コア専門学校（千葉直樹校長）歯科衛生士科の登院式が4日、同校で行われた。2年生14人が、臨床

実習に向け士気を高めた。2年生は9日から12月19日まで、十勝管内の歯科医院などを1人3施設回り、

登院式に臨んだ2年生
と関係者

実習に励む。

千葉校長は、「積極的に学ぶ姿勢を持って、しっかりと実習に励んでほしい」と激励。十勝歯科医師会の大滝達哉会長、帯広市市民福祉部の石田智之ことも健康担当参事が来賓としてあいさつした。

学生たちは壇上で実習の目標を述べ、「希望」の花言葉を持つガーベラとネームプレートを千葉校長から受け取った。関係者ら42人に見守られながら、代表して小山奏心（かなみ）さんが「先生方や両親、支えてくれた人に感謝し、実習に励みたい」と決意の言葉を述べた。（馬淵智子通信員）

2024年9月6日

十勝毎日新聞社

【20面】

ケア7原則で怖くない

14日帯広コア専 認知症理解へ講演

認知症ケアに関する講演
会「シン認知症ケア7原則
一瞬一瞬が幸せなら、そ
れでいいよ」が14日午後1
時半から同4時半まで、帯
広市内の帯広コア専門学校
(西11南41)で開かれる。
呼び掛け人の後藤じゅん子
さん、帯広市は参加者を
募集している。
ホッカイドウ地域ケア研
究会主催。講師は栃木県
の宅老所はいこんちよ代表の
小林敏志さん。小林さんは、



認知症ケアの実践経験から
提唱するケアの7原則を中

心に講演する。

後藤さんは、夫が前頭葉
側頭葉型認知症と診断され
たことをきっかけに、認知
症ケアについて多くの人に
知ってもらいたいと企画。

「分からないことが認知症
への恐怖につながってお
り、正しい知識を持つてい
たらとの後悔があった。関
係者にも広く知ってもらい
たい」と話す。

会場となる帯広コア専門
学校では、道の助成事業「介
護のしごと魅力アップ推進

呼び掛け人の後藤さん
(左)と帯広コア専門
学校の藤田薫事務長

事業」の一環として会場を
貸し出し、学生も講演会に

参加する。

参加費は、早割り価格を
据え置き1人2000円。
学生は1人1000円。定
員120人。介護セミナ
ー事業の「くるんば」のホ
ムページQR
コードから申
し込むか、メ
ル (meetup@kurumba-
h.com) やファクス (0
797・62・6874) で。

(菊地青葉)

車いす試乗や展示 学校祭にぎわう

帯広コア

帯広コア専門学校（千葉直樹理事長）の学校祭が7日、同校で開かれた。介護福祉科が福祉用具などを展示したほか、模擬店の出店や有志によるパフォーマンスが行われ、地域住民など多くの人でにぎわった。

27回目の開催で、今年のテーマは「HERE WE



車いすに試乗する地域の小学生ら

GO シン帯コア祭」。模擬店は学科学年ごとに店出し、ラスベリパイやじゃがバターなどを販売した。歯科衛生士科3年は、たこ焼きを販売し、約100個が午前中で完売する人気ぶりだった。

有志パフォーマンスでは、フルートの岩田夢菜さん、医療ビジネス科2年とサックスの丸山綾太さん、情報科2年が「残酷な天使のテーゼ」などを演奏。会場にはペンライトやうち

わを持って応援する観客が詰め掛け、盛り上がった。介護福祉科1・2年は、日頃学んだ内容をまとめた模造紙や移乗サポートロボットなどを展示。車いす試乗体験も行い、地域の小学生らが試乗していた。体験した帯広啓西小2年の文澤恵麻さん（8）は「初めて乗った。ブレーキがちゃんと付いていることが分かった」と話した。同科2年の三口恵輝さん（20）は「いろいろな人と話せて楽しい。福祉用具の機能などについて聞かれ、勉強したことを伝えられた」と語った。

（菊地青葉）

選手介助を体験 「今後に生かす」

帯広コア専門学校

○：帯広コア専門学校の学生19人は選手介助のボランティアで活躍。写真。原田望心（くるみ）さん（19）
「介護福祉科1年」は「選手と競技などについて話が



できて楽しかった。いろいろな障害を持った方と接した経験を今後に生かしたい」と話した。女子学生（19）
「2年」も「障害者スポーツは自分自身との闘いと感じた。私自身が生きる上で学ぶものがある」と感動していた。

2024年10月2日

十勝毎日新聞社

【22面】

27日フードバレーマラソン

5463人帯広を力走

「フードバレーとかちマラソン2024」(実行委員会、帯広市主催)が27日、帯広市内で開かれる。ハーフマラソンや5kmなどの部門に道内外からエントリーした総勢5463人が秋の十勝路を疾走する。(大谷健人)

午前8時20分からオープニングセレモニーが行われ、3380人が出場するハーフの部は、午前8時半にスタート。平原通の日専速ビル前をスタートし、白樺通を西へ進んで、帯広の森運動公園や陸上自衛隊帯広駐屯地、緑ヶ丘公園などを通り、ゴールの中央公園を目指す。ハーフは日本陸連公認コース。

5kmは午前8時40分、2・5kmは中学生以上が同8時50分、小学生は同8時55分、親子ファミリーは同9時と車いす(0・5km)は同9時にスタートする。

各部門のゴール地点となる中央公園では「食フェスタ」として、25店のブースやキッチンカーが出店。十勝の味覚を味わうことができる。

ゴールの中央公園で「食フェスタ」



おそろいのTシャツ姿でボランティアやランナーとして参加する学生

帯広御候所によると、27日の帯広の天気はくもり時々晴れで、最高気温は15度前後と平年並み。朝の最低気温は6度前後で、スタート時の気温は10度未満となる見込

み。

投票所区域で通行止め

27日は、衆議院議員選挙の投開票日と重なっており、市内9投票所が区域内に一時通行止めとなる箇所がある。対象となる投票所は開西小、帯広小、花園小、中央福祉センター(西7南12)、隆西小、緑南福祉センター(南町18)、帯広の森コミュニティセンター(空港南町南11線)、ときわの森保育所(西16南5)、森の里小。

また、緑丘小、緑西コミセン(西17南4)、第五中、西10号会館(西21南2)、広陽小、西陵中、森の

交流館・十勝(西20南6)の七つの投票所では、一部区域が通行止めに隣接している。通行止めとなる時間は各所で異なる。詳細は大会ホームページのQRコードへ。



JAGAが特別放送

JAGA(FM77.8MHz)は27日午前8時~11時、大会特別番組を放送する。当日ランナーとして出場する漫画家横山裕一さんがゲスト出演するほか、会場からの様子やイベント情報などを伝える。

ボランティア79人壮行会

帯広コア専門学校 全校挙げ支援

帯広コア専門学校(千葉直樹理事長)は24日、「フードバレーとかちマラソン2024」に向け、壮行会を開いた。同校からは前日・当日ボランティアが79人、ランナー9人が出場する。

地元のマラソンイベントを盛り上げるため、2012年の第1回大会から学校を挙げて参加している。壮行会では、学生がオリシナルの青いTシャツを着て集まった。千葉理事長が「イベントを通じて貴重な経験思い出さなければ、若いエネルギーで盛り上げて」との壮行文を読み上げ、学生が士気

を高めた。3年連続のボランティア参加となる櫻井湧太さん(20)は「高度情報システム科3年」は「十勝の外から来た人との交流も楽しみ」、初参加の横田和奏さん(19)は「医療ビジネス科1年」は「走り疲れている人と気持ちよくコミュニケーションが取れたら」と抱負を語っていた。

ランナーとして出場する佐々木朋輝さん(18)は「情報ビジネス科1年」は「何とか完走できるように気合で頑張りたい」と意気込んでいた。(大谷健人)



○：帯広コ の施設見学も行われ
 ア専門学校
 た。
 （千葉直樹校
 長）は14日、高
 満寿屋商店の杉山雅則
 校長を講師に招き、ピ
 ザ作りを体験。在校生
 も協力して来たるべき
 後輩たちをもてなした
 〓写真。帯広南商業高
 生士科、情報システム
 科など各学科の学び体
 験などで学校の魅力に
 触れ、進路への意欲を
 高めた。幕別町の介護
 老人保健施設あかしや
 （瀬藤範子通信員）

十勝に暮らす

Live in Tokachi

「おはようございます!」「体調に変わりはないですか?」。社会福祉法人刀圭会が運営する、帯広市内の介護老人福祉施設「これの木」(山田寿施設長)で、利用者の介助業務に当たるミャンマー出身のカイン・マ・トンさん(37)は、「こうして人と話したり関わることが大好き」と朗らかな表情を浮かべる。

1987年生まれ。「子どもの頃はやんちゃだった」と笑う。ミャンマー国内の大学を卒業後、興味を持った日本のマナーや文化を現地で学びたいと、2015年から3年間、技能実習生として埼玉県食品製造会社で勤務した。実習生期間が終わって一度帰国するも、「次はグルメがたくさん

カイン・マ・トンさん(37)

人と関わる介護にやりがい

ある帯広市に住みたい」と再来日を決意した。ビザ取得後、帯広コア専門学校で2年間学び、介護福祉士の資格を取得。同施設で働き出した。日本語は流ちょうで仕事

ミャンマー出身

ぶりが良く、職場での信頼も厚い。「どんな仕事にも冷静な対応ができる職員になりたい」とカインさんは目標を立てる。

「周りの人がみんな温かくて良い地域」。すっかりお気に入りになった帯広市で、楽しく日々を過ごす。(山田夏統)



お年寄りと親しげに話すカインさん。利用者や職員からの信頼も厚い

通信事業や携帯電話の販売などを手掛ける「ヒグマ」で、同社が近年力を入れている修理部門を担当する。社内で唯一、スマートフォンやタブレットの修理をこなせる技術者で、2022年に入社して以来、1500台以上の端末を直してきた。

01年帯広市生まれ。帯広つつじが丘小、帯広第二中、帯広大谷高、帯広コア専門学校卒。幼い頃からプラモデル作りなどの細かい作業が好きで、「仕事としてできるのが面白そう」という思いから入社した。

研修を経て専門的な技術を身に付けていったが、趣味で楽しんでいた作業とは異なる

スマホ修理 毎日が勉強



誠実さを心掛けて丁寧に作業する高橋さん

企業ファイル

通信が柱、格安スマホも販売

■本 社 帯広市西8南1ノ3ノ2
■代表者 飛岡抗社長
■創業年／資本金 1986年／1000万円
■売上高 非公表
■従業員数 6人
■事業内容 音更町で「ヒグマ電器」として創業。通信事業を柱に、2020年にはスマートフォンやタブレットの修理を正規で手掛ける全国チェーン「iCracked Store」をオープン。23年から格安スマホにも参入し、管内で唯一の「X-mobile」公式ショップを運営している。

ヒグマ

高橋賢匠さん

り、精密機械を扱う難しさがあつた。「マニュアルに手順は書いてあつても、力加減などは感覚でやるしかない」。より慎重にならなければいけない箇所を把握するために、スマホの仕組みそのものを理解している必要があり、

毎日勉強の日々と捉え、謙虚で誠実な姿勢を心掛ける。修理は客の目の前で見せながら行うのが店の決まり。ただ「人前に出たりするのはあまり得意ではなかった」と高

橋さん。最初は緊張していたが入ったスマホ。直って「良かった」と言ってもらえるとうれしくなる」とはにかむ。

（児末未知佳）

中核担う期待の若手

飛岡抗社長の話 素直で真面目。修理部門は今後会社の中核になる事業、期待の若手として頼りにしている。

2025年1月11日 十勝毎日新聞 (1)

情報ビジネス科 卒業生

高橋賢匠さん

向上心持ち、夢に向かって

帯広コア専門学校の卒業式 40人の門出祝う



帯広コア専門学校の帯広千葉直樹校長の2024年度卒業式が8日、帯広市内の帯広市民文化ホールで開かれた。来賓や保護者らが出席し、卒業生40人の新たな門出を祝った。

今年度の卒業生は高度情報システム科4人、情報ビジネス科5人、医療ビジネス科12人、介護福祉科7人、歯科衛生士科12人。

千葉校長は一人一人に卒業証書を授与した後「向上心を持ち続け、学び続ける姿勢を忘れずに、それぞれの夢に向かって力強く歩ん

卒業証書を受け取る
卒業生

でください」と式辞を述べた。

来賓の祝辞に続き、在校生を代表して情報ビジネス

科1年の渡辺史弥さんが「社会人として、これまでの経験を生かし、未来を大きく広げていくと信じている」と述べた。

卒業生代表の横山ひかりさん（歯科衛生士科）が「皆と一緒に学び、成長できたことは一生の宝物。それぞれの道でスペシャリストになれるよう精進していく」と答辞を述べた。

最後に会場の全員で「旅立ちの日に」を歌い、閉会した。（中島佑斗）

2025年3月10日

十勝毎日新聞社

【20面】